



2008
平成20年

6

誌面に掲載した記事・写真等の無断複製・転載等はお断りします。
お問い合わせ・ご意見は狛江市地域活性化課へ

発行 ● 狛江市地域活性化課
〒201-8585 狛江市和泉本町1-1-5
☎3430-1111 FAX3430-6870
Email=wacco@city.komae.lg.jp
編集・制作 ● 特定非営利活動法人 k-press
〒201-0012 狛江市中和泉3-2-16
プランツベルツ201
☎3430-6617 FAX3430-6743
Email=wacco@k-press.net

人口増で事業開始 処分場確保に苦勞

ごみ・し尿



昭和30年代に入り人口の急増にともなって持ち上がったのが、ごみとし尿の処理である。それまではごみは砂利の採取跡に埋め立て、し尿は農家が肥料として引き取り

たりしていたのが、量が増えて困難になり、住民の要望を受けた町(当時)は昭和30年にごみの収集とし尿のくみ取り事業を直営で始めた。その後、収集・運搬は民間会社に委託したが、処分場の確保に四苦八苦する状態が続いた。し尿は54年の下水道の完成によって水洗化が可能になりほぼ解決、ごみは稲城町と多摩村(いずれも当時)と多摩川衛生組合をつくり、焼却処分を続けてきた。しかし、ごみの量の増加によって最終処分場が限界に近づいたことから、ごみ減量と分別収集、リサイクルが急務となり、ビン・缶リサイクルセンター(平成6年完成)を建設するなど、市をあげてごみ問題に積極的な取り組みを続けている。

クリーンセンター多摩川

現在



稲城市にある多摩川衛生組合のごみ処理施設。狛江、稲城、府中、国立4市のごみの焼却、不燃・粗大ごみの処理、し尿処理などを行っている

半年でくみ取り事業を立ち上げ

西山惣次さん(85歳・元和泉)の話 昭和28年に町役場へ入り、30年6月に厚生課長になりました。最初に手がけたのが、し尿のくみ取り事業に関する条例でした。当時は、住民が農家にくみ取りを依頼していたのですが、量の急増と化学肥料の普及で断られる家庭が多くなり、町へ陳情や要望が寄せられるようになっていました。このため、当時の町長が直営で事業を行う方針を決めたのですが、「お正月をさっぱりした気分で迎えてもらいたい」という町長の意向で年内実施となり、わずか半年間でゼロから立ち上げねばならず、たいへんでした。調布などの例を参考にして、手数料を1たる(36㍊)20円、半たる10円とし、利用者は酒屋、米屋、たばこ屋などでくみ取り券を購入する方式に決めました。8たる積みのリヤカーで作業員が集めたし尿は、農家の

肥だめに捨てさせてもらうことにしました。課員4人が中心となって実施に向けた条例づくりから予算の策定、収集のためのリヤカーやおけなどの手配、くみ取り券の手配と販売先への委託、し尿の捨て場を頼む農家との交渉、住民への広報などを進めました。開業までもたいへんでしたが、その後も苦勞の連続でした。2、3年で捨て場に困るなど、事業が行き詰まり、34年に加藤商事に処理を委託して捨て場が確保できました。しかし、埼玉県狭山市まで往復80kmを輸送しなくてはならず、一時的にためておく場所の確保もひと苦勞でした。このころ、「狛江町清掃工場」を喜多見との境に建設する構想が持ち上がりましたが、住民の反対などで実現できませんでした。その後、町の中に清掃工場の建設は難しいと判断、多摩村(当時、現多摩市)に処理場の用地を取得しまし



し尿の運搬

1937年

世田谷通りを行くし尿を積んだリヤカー。かつては肥料として使われた

た。この土地は多摩ニュータウンの区域に編入されたため工場はできませんでしたが、これがきっかけとなって後に稲城、多摩と多摩川衛生組合を設立、念願の清掃工場が建設できました。十数年にわたってし尿とごみに携わりましたが、し尿は下水道化、ごみは清掃工場の建設でひと区切りがついたことに深い感慨を覚えます。

手不足の時は職員も手伝い

井上昭一さん(75歳・元和泉)の話 昭和34年に町役場に入って、最初に配属されたのが厚生課でした。ごみとし尿の苦情の電話が毎日数十件かかってきて、応対と処理に追われました。し尿くみ取りの催促が一番多く、悪臭の苦情もけっこうありました。し尿の



ごみ収集

1970年

狛江町時代のごみ収集。現在のロードパッカー車が登場するまではトラックの荷台に積んだ

くみ取りはリヤカーではなく、バキュームカーになっていました。ある日、残業しているときにくみ取り依頼の電話がかかってきました。葬式で人がたくさん来るからどうしてもという話だったので断り切れず、作業員が帰ってしまった後だったため、それまでやったことがなかったのですが、自分でバキュームカーを運転してくみ取りにいきました。また、大みそかに道路のまん中にごみが山積みになっているという電話が市役所にかかってきたことがありました。自宅に連絡があり、仕方がないので出勤してトラックで片付けに行きました。当時は、臨時職員3人がリヤカーを自転車で引っ張って、契約している家のコンクリート製のごみ箱から集めていました。ごみ処理を契約している家庭は100軒ぐらいで、契約料は月250円から300円でした。集めたごみは町役場の敷地内

三輪バキュームカー

1958年



町に初めて配備されたバキュームカー

にある保管場所に積んで、そこからトラックで処分場へ運ぶのです。私は事務方でしたが、手不足の時などはごみの積み下ろしや片付けなどをしました。夏などはすごい臭いだし、生ごみから出た水をかぶったりして苦勞しました。ごみを捨てる土地を借りていた川崎市まで、地主さんへのあいさつを兼ねてごみを積んだ4トラックを運転していったこともあります。いまから考えると、よくやったと思います。

ごみ、し尿処理の歩み (緑色の文字はし尿関係)

- 昭和30年 リヤカーで有料ごみ収集開始
- 30年 リヤカーで有料し尿収集開始
- 33年 し尿収集にバキュームカーを配備
- 38年 狛江町、多摩村で狛江・多摩衛生組合発足
- 39年 稲城町が加入、多摩川衛生組合発足
- 40年 ごみ収集に2tタンクを配備
不燃ごみの収集開始
- 41年 多摩川衛生組合のごみ焼却炉稼働
- 45年 市制施行、狛江町から狛江市に
- 46年 ごみ収集を民間に全面委託
- 46年 稲城・多摩・狛江衛生組合発足
- 47年 ごみとし尿の組合が合併、多摩川衛生組合に
- 54年 下水道が全域完成
- 59年 有害ごみ分別収集開始
- 平成元年 資源(ビン・缶)ごみ収集開始
- 3年 こまごみ市民委員会発足
- 5年 ごみ半減推進検討委員会発足
- 6年 ビン・缶リサイクルセンター完成
- 10年 クリーンセンター多摩川完成

渋滞や置き場確保に苦勞

加藤商事(東野川)の話 昭和34年から狛江のし尿の処理を行って来ました。初めは集めたし尿の最終処分だけで、埼玉県狭山市にあった処分場へ運んでいましたが、46年からごみの収集も担当するようになりました。昭和40年ごろから浄



バキュームカー

2008年

化槽が普及し、し尿のくみ取り量が減り、さらに下水道の普及による水洗化で一般家庭のくみ取りは現在ほぼゼロになりました。ただ、バキュームカーは災害時にも必要なため常備しており、仮設トイレなどのくみ取りに現在も週1回使っています。小田急線が立体化される前は踏切の渋滞でごみの収集が時間内に終わらず苦勞しました。また、集めたごみを清掃工場に運ぶにも道路の渋滞で遅れることが少なくなりました。平成元年にビンと缶の分別収集が始まり、当社は3年から業務を委託されましたが、搬入先で反対運動が起き、積み替えと保管、分別作業のための敷地探しに苦勞しました。ようやく市内に置き場を4カ所確保しましたが、一時は大量に野積みしなければなりませんでしたが。ビン・缶リサイクルセンターができ



ビン缶リサイクルセンター

2008年

センターでは回収したビンや缶、ペットボトルを選別して圧縮する作業を行っている



ごみ収集車

2008年

解決しましたが、現在ではリサイクルへの市民の理解も深まり、ごみの減量が少しずつ進んでいます。

写真提供・取材協力=西山惣次、井上昭一、株式会社加藤商事、木下和信(順不同敬称略)
資料=『狛江の民俗』、『萌動』、『狛江市清掃概要 平成18年度版』(狛江市)